





享和二年

壬戌

歳旦

大陽の氣を忘れず福壽軒

如是菴

徳布

春興

鏡月より鶴より風より氣色あり

全

うらりす布 袷の織の重き如ふ 一号 絢堂

汲船や三日月のハ散橋 全

守業

世より師を期ても濡らぬ気味 徳布

身より帯めりて敷きの以事 全



詔光

窓の小墨のやうきを山の 暁月楼

富士の波ぬるむ大川を宿の春 逢波子

三日月の掬ふ所規式 法布

天石の和合舞より整ふく 吸川

春鳥

燕袴のうづり香法一軒の梅 金波子

兼暮

年と子のきぬく近く春あは 全



太簇

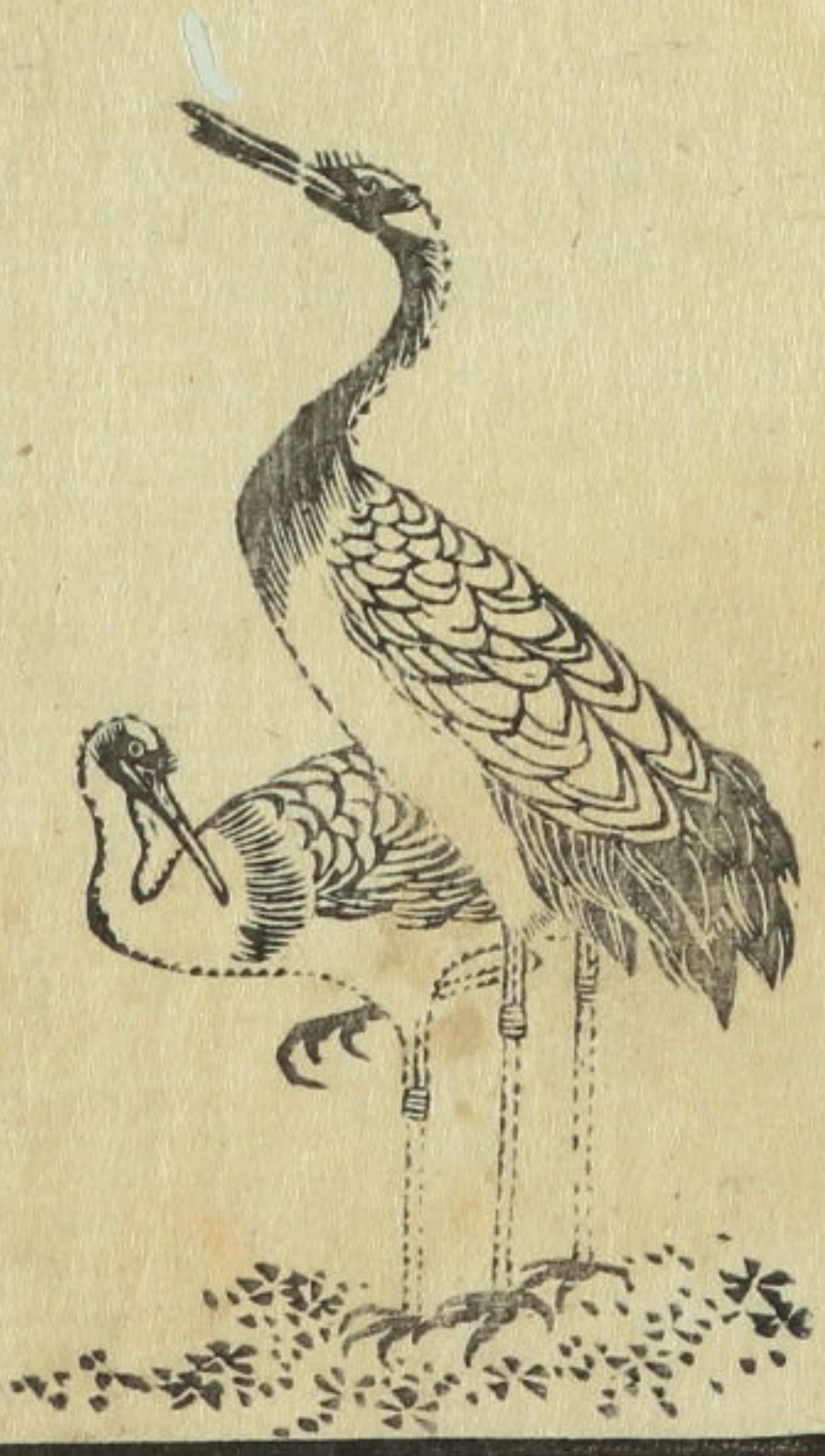
あつしうふあを候や花乃暮 春鳥 先故子

春鳥

一筆り工史乃布や窓の梅 全

古案

秋也んと春とゆくと宝舟 全





吉陽

相争の松竹 初日や二又く月堂 巴電子

英具

風の海遠山の澄をぬきみたり 全

年尾

老翁の年の山竹の後儀 全



吉陽

克松の存ありやまぬくふり免

友之専 八十一女

英具

うゑかたや眼を曇り人眠る人 全

吉蔵

あしく乃世帯あらしの市 全



聖節

門去や程古くはふく神意

山内平 蕉 御音

春真

梅より強く又弱く梅のほら 全

歳梢

年此歳の鳴るなり 一市の人 全



春真

て夢や猫のくはるは塵也よ

積翠亭 巳 禮

歳暮

帰るくはるはる女客

全



頌

蓮葉小並くく見るや海壽草

貞松觀
大吳樹

春興

虫を去産小梅又庚の扇小

全

紫葉

和布弁や一足りの深夜の檀

全



頌

多の満る福葉筆と已りたる

退堂
寛也

春興

新えんと水や解るは岩の梅

全

守葉

年比暮手小物く物ハ皆春を

全



頌

青也雀之海小代八代

蓬蒿奇
青芽

青鳥

其音を余不ちり特梅鳥

全

茶書

年既小実極此花を清心

全



頌

惟光小病の繪も世に三つの物

成三樓
蓬雨

真鳥

偽の有り世とを以て花と見ゆ

全

歳書

鈴弁妹の葉小陳夜更也

全

頌

蓬萊くつんこ中を推や明の春

桐花舎

呉松



甚真

雪々く富士うらりと遠處

全

守葉

年々そん孫と難水森のたふた

全

次

待降る我雨宿の恵みや花のふれ

眠庵舎
岩

之

甚真

まうるおや岩山乃雉子一

全

茶葉

室とてせり白ひらきの梅

全



頌

元日や神代のまゝの人ありけり

常盤川

春真

物たりよ庭の中此柳の乳

全

寺峯

けり 爲る 響の 槩や 涼衣乃 枝

全



頌

下地の中鳥を候必あり響ありけり

白陽庵 柳 窓

春真

お祭玉此来り響のまゝありけり

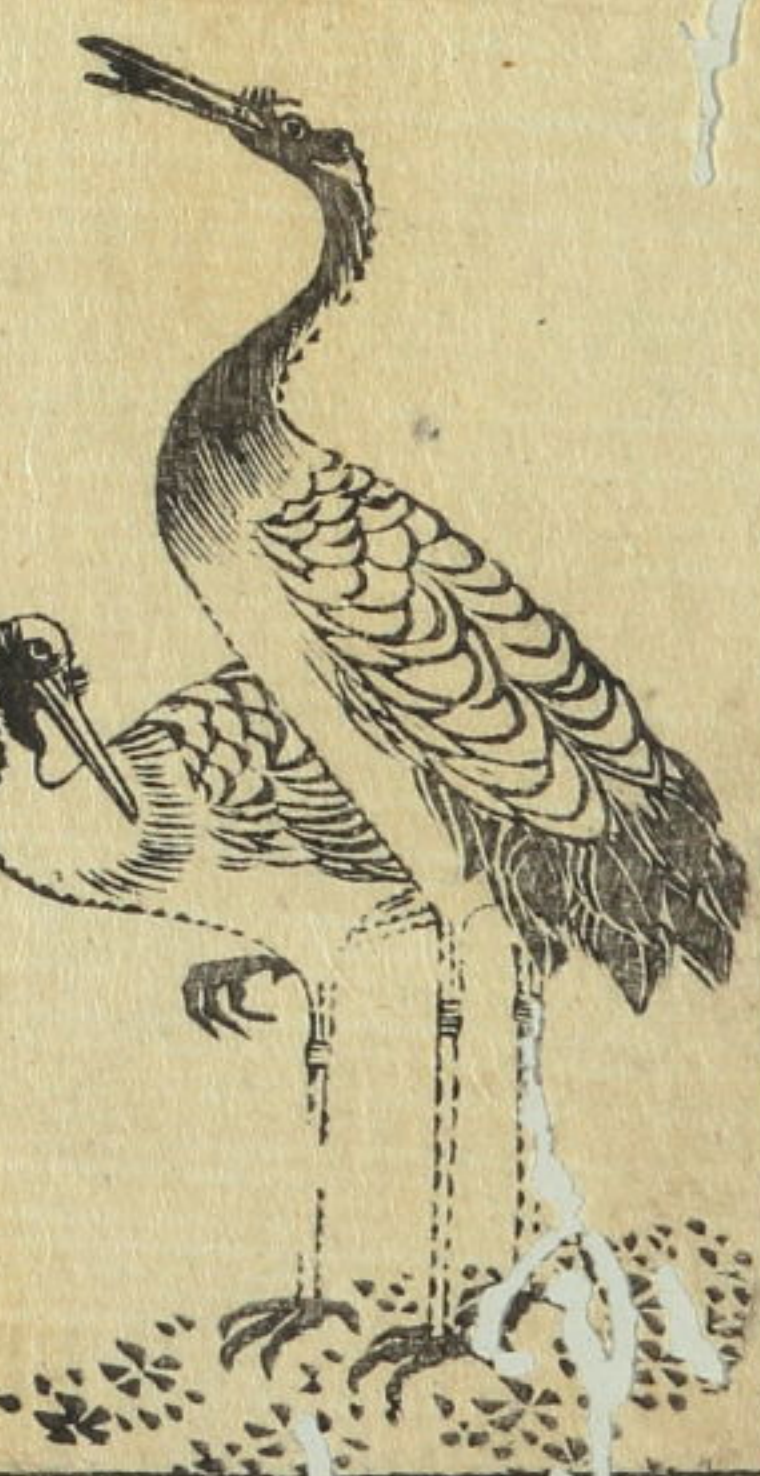
全

寺峯

あゝとけりや 庭中の響ありけり

全





頤

直名とあし

弟誠法先師むらじしる日の出

春岸

弟安

喜真

幼くて母也席一地振と安を

全

葉権

一子の葉も秋星乃光りくね

全



水

元日や人と佛息氣の死り

告曉窓
文 鶴

其真

はる風や川邊とあむむ心

全

葉尾

化糖志と人建のなき師志

全

頌

三月日さあふふ二也世界の終り初

春眠亭
東
隆

其真

松風の通ふまふ初子此旨

左

吉成

北の向敷社を楯也年の林

左



頌

年々此年此海りや門の松

津輕弘前
松高亭
鶴子

鳥書か移し飼りる園の内

全

鷹道と辨小年の何由ふ

全



三節

元日や手折姫小枝一技

兩國

涼河

青柳や風も吹かされて丸の字

左

年々の寶集めや妹拂ひ

左

三節

海系やさういふは初夜

八丁堀

佐保女

袖も香を包んで戻す梅は水

全

いさかゝ酔う忘るん年浪

全



初陽

まじり目のお松よけきまこ旅う礼

佳日庵

来二

波靜や系東風の浪を

浪布

簾よりかかて乾珠の重たゆて

万化



夾具

むめきくや座巾式弱う古木履

来二

歳暮

夜眺芳ふ蝶多や苞玉子

全



东天

えんげんを神起する阿や枚意
得く元日の燈火のくは

明けくや神の血息城を川産

亨堂兼露改
萬化

屠蘊まゝあ小内所清津

徳布

松の琴の禊く東風や西ふらん

来二



春真

坂道や秋齒麻を靴きりの布

萬化

古叢

うたはをたけりて空を
和年ある屋——とくや

きく啼やつゝ免くき十二か

全

旦暮春真白鹿記

春真

七尺の隙子由在靴靴靴の丁急

三物吉田
古靴

山古やふ葉の松小靴大根

免堂

水山やあけうとゆえ春の雷

南湖

左靴風や奥の道志の蒲柳伴

桐蔭

ゆふ亭もぬるみふつをう冷後

免堂

雪の花根小松らせるま秋景 茶筵

敬請の時先くはや春の風 紫楊

左京雨よ濡て毛ぬきは鏡子の夜 露術

枳あるとまゝして帰る菫をさ雀 禎甫

再も多くとは暖中の夜やつと 雀歩

漱小松の秋雲をみ深くは秋の月 梅柳

介り不く小菫の葉ふ川邊に 魚石

漁家の泣き次は弟もは鹿川 同卒呂 亥徑

長閑さや秋をれきては野路山路 日赤岩 可笑

切念の香は此の輝は抜くはは 遠州松 兔白

燕をまをふをする人の猫や秋の香 おん 扇白

頌

巨海波静なりなりと船の春 小舟 里東

雀を立てつは英始るふは葉小 全

餅搗や月を花の实入時 全

多水や素袍はうはつる旭 此處河岸 濠洲

吹かくる風より流る柳水 全

る小松津けて遠小日や年の暮 全

富士（目）れ禱りて後や初馬 知道

と敷めくや髪剃りている後を 全

松建る親も子もあつとりの海 全

頌

あ水や清よ心城汲んで見せ 久松樹連 祐水

橋の下行く水や玉敷の月 全

勢ひをう敷介もあつとりの市 全

まつとるや日如晴の青田系 今 枕水

垣間又の人小科は庭木の巻 全

餅つきや一回ハ子の虫牡丹 全

渺初や朽れぬあつとりの雀と友 武卒方海峯 百泉

枯るや登るくろ水の柳と 全

室取多うとつと友成待日小 全

頌

先づさしりて小塚や花の妻

小岩路

松秀

玉川の陽を言ふ柳かふ

全

若乃戸城歌く多あて年の梅

全

ありくとふ二いそくやまつ麻

全

雄和

草くのほみろ伸るや春の雨

全

まぬの氣乃白ひ倉や年の梅

全

歌あめと若水清き咲ぬり乳

全

和笑

休雪や梅ももゆふ春の雪

全

夏まきや神のちりま歌年男

全

書しめや古記をすもの初合示

御原

如暁

管や日く小初くく水の乳

全

灯の舞の真阿うとりの市

全

頌

果つ代や露雀を産ふ初日歌

全歌白陽は庵連

如翠

梅の香や袴の影小たくとこ

全

燈く見しや多矢一の衣曆

全

十二支のまじり一枚や巻の巻

紙巻 吾舟

船記の銜利塔海を煉るひ

全

巻巻の山より山や山日の出

嶽岩

何千里を辰の上やあたる所

全

巻返に曆の煙やうりの市

全

不二の晴き年代を初日の意ひ

一三

玉鏡はく老の使やまぬの風

全

来る来城集数人やとりの市

全

殺の子小足る事城初顔齒意

馬十

陽巻や江都の巻也八方かの鏡乃鞘

全

胡記やうつとうふちの物

とを大系 青蒲

暁や鏡のうちより雛子の部

全

世の中は師をあやも指の上

全

何巻代松く出さるる河馬

下谷 文机

遊りゆく来れば三輪二几中

全

徳研く除衣の激踏や思唄

全

頌

甲列
平日菴

美し紀人の心と舞乃春 宜樂

青瓦の千尋小入るや凡中 全

鏡の音かきとく年城懐く 全

頌

下毛山田

月雪やま川又其ま小花の末 逆杖

鐘よりも子へ明る梅の花 全

追立て半片(せり)手本懸 全

頌

求我斎

袂より惠方と聲やか活子 百童

日向く深まり大や梅の花 全

年波たしを乾きあり糸休賣 全

起く小麻子の聲やと船の春 小流庵 蓮河

嘗は日わく聲の感ら梨 全

舌の喉舌悔むむやうの関 全

春真

胡風小志ささく雨や雉子の工急 深川 寔易

妻に雉子坊と山路の系延水 全 村年

雀は霧ふ元定りとく妻水 沙州 梅儿

工敷のる夜あ小浜を静めは 全

頌

元朝や古比小床る新しみ 本橋下 牛馬

喜脱小江の負浮く雨の降る 全

家丁海松川師走の柳乾 全

頌

富士の根やし川日の中の前景 湯澤下 窓旭

まのくと柳む水あいのるや季夜 左

奏初や李白さ海了の酒を秋 望川 月堂

常やまの泊り餅も善始 全

辞は角丸く奉りき大晦日 全

草本より先諸人や春れ色 深川 樽買

侍春と招打きり森こま 全

神垣下 春めく人の歩み 全

頌

つぎや海を渡る神の日の力 石系 布流

松の木の影に山里も人通り 全

よみ珠も耳小秋の師をい 全

むの城壁の漆もやまの海 全 百舟

明かすよ不真と起い去る水 全

水も月の能はを流し大晦日 全

左筆より産業と管より
小居えと我のこけハ

我はよ新も子代種ん松より 如章

陽光ややみかきくの麦の眼 全

東に春城新あろふは長久 全

頌

菊菜や露れぬ母の向ふ地 下老若所 文罪

立解ややみかきの木ま返り 全

煤もまや風呂をとまはまき海 全

かきく半乾惠こあ〜こや初見出 源川 如燕

和の香ハすあはもの死むめの花全

花書

庵の菜の一味床〜や年働全

春真

昔の雨子み出〜とと森小 全 昔猶

唯よ柳光暮〜と記去日々系 全

弁當を肉く喰ふ日や春の雨 全 漁幸

地へ迫り〜と音川柳水 全

水を飲〜風青柳のち〜水 玉川 萍魚

留〜あちの野や公梅の縁几家 全

春真

野屋あやと目ゆる炭梅の花 春風楼 和水

空清お甲落のみ〜れや春の色 首堂 貞瑟

碑の墓も〜ひらり糸柳 沙茶 一川

二日灸貞女も帯を解て〜 染心亭 逸窓

去〜梅れ〜海小魚〜月夜小 申流庵 秀夫

歳旦

あめそと青の字と紅粉の字路

七十首
梨下菴

窓 雪

歳暮

餅つゝやまゝ夜涼小きこひ

全

春真

流くそ野川の側のよか葉小

花実庵

菊 守

春興

春とけや流る小跡く沃の香

夏爾菴

花 浪

山吹や蛙又とるる雨のいろ

里 泣

燃香の花山彦の苔と出る

魚 泳

極先小塔の寂く梅乃巻

枕子

吹ち折る花の簪や小竜梅

其徳

雪や菊よりとちて梅を看

多洲

東風やちりつらつら鐘の巻

東明

頌

我教小塔の此巻や小川流

峰旭菴
翠雪泥

雪も夕采へ薫る山崎の糸

全

煤もゆくは板や一夜のうら

全

末廣の道や扇子小筆のめ

雪夕

柳も波や色を雉子のいろは

全

枝も小春の月とやちの梅

全

くも玉や先ち梅の換りの

春絨

其影ハ音羽の滝書割^レハ
 蝶^レ以^レ巾^レ新^レ端^レ小^レ星^レる^レ月
 也^レ以^レ巾^レ無^レ為^レ成^レ立^レて^レ家^レの^レ春
 七^レ種^レ成^レつ^レむ^レ巾^レ七^レ等^レの^レ初^レ治
 門^レ廣^レく^レい^レふ^レく^レま^レぬ^レ巾^レ飾
 元^レ日^レ巾^レ三^レ條^レの^レ氣^レ色^レの^レ渡^レ河^レ丁
 七^レ種^レ巾^レ中^レ小^レま^レく^レて^レ美^レ敷^レ巾
 彦^レ成^レ小^レ陽^レ月^レ薰^レ巾^レ年^レの^レ梅
 全 全 文 全 全 全 全 全

頌

初^レ々^レ巾^レ水^レ汲^レむ^レ人^レの^レ紀^レぬ^レら
 松^レ系^レ巾^レ元^レ落^レく^レ新^レあ^レう^レ礼
 夕^レ鼓^レ巾^レ軍^レ入^レ年^レの^レ市^レね^レ急
 龜^レ井^レ巾^レ巾^レく^レむ^レ若^レあ^レ小^レ落^レの^レ新
 風^レ道^レ一^レ矢^レを^レる^レ林^レの^レ白^レひ^レ巾^レ那
 我^レ家^レハ^レ鬼^レま^レり^レ丸^レ巾^レ片^レ一^レ於
 名^レ采^レ巾^レ春^レ巾^レ日^レ見^レ思^レ玉^レの^レ忍
 推^レ鼓^レ菴 素^レ阿
 全 全 全 全 全 全 全 全
 神^田其^風

まら陽の毒も沸く日新 横山街 東行

そら歌りも先未廣也 みち菜のみ 全

元日や清くふき を捨本風呂 神田 和厚

夢千代も春ふ 小蓬色 南の梅 全

梅ぬき日冬遠く ふらふら 暮 全

門松や分く ゆりふら ぬら 森下街 村里

大凡中や春に 滑り 子の力 全

樽酒を 砂 いふ ふ ふ 全

頌

元日や花の世界 れん 遷喬亭 欽童

箒目に 新 を流 て 柳 の 孔 全

物喜み 訓 大 都 を 師 克 小 全

新 〜 〜 墨 も 煮 る 也 の 硯 女 花井

先の春の小出 小 咲 や の 梅 全

喜真

梅よ来く日浅定り香の家 菴濟 馬喬

紅梅の色無き梅よ余り 柳場 白志

羽衣れ若く梅よ 柳境 歎之

地拂ふ梅乃か 陸州 桃英

春の日 取頂 文流

喜柳 今 素月

散く 今 白英



吳舩画

村

村

春興
後仙

春色千黒木小巖さうとにゆ 江戸市

永き月小沼小那水の友 兼母

備きく露海今ふ采とゆく 宝波

おきたしせうる句字さう 小鶴

月の出れ去りたぬふ峰の松 寛之

山小生くけく麻の海き 東曉

赤く刈きぬ任の浪花の組客き 青芽

空の泌え今うかさなむ 大善樹

空うく古まの果の世と寂き 愈會

玉花く昔小恨なき風 八十女

五笑を挽く藤花のをる裕時 梧園

氣味よ記味と魁さうへ 萬笑

此年よるれく矢の跡さうへ 百童

法おとさゆるる場のり法 蓬雨

鶺鴒の尾氷くくく 凛々 雪沼

日あけさひ新 玉津島 市流

たけけちき方より花の一字歌 己礼

南風より 温る 土産の 下海苔 寛之

照中流の細ぬき 河 喜う 久翁

踏合の目立川 源氏程く 喜芳

以遊 近流き 皇子 城世の 誇り 东院

臨 月をく 疲せ 氣はふ 漁布

斤照り小流くく 田竹も 元好き 大曼樹

只けくく 一年ハ 幼農を 稀 吸川

神燈のこころく 通夜明く 八十女

士卒ともく 勇む 出陣 彦倉

初雪を 牛を 横す 人 晴より 范法

揚屋々 翼小 年ハ 明く 笛 雪沼

忘きく 秋月 の 麻子の 言 巴雪

出樵く せ 野を 道の 末 松 岩之

いづかきもをきくはつちの春参り 菊矢

龍車も森る子光習うとて 金波

隠居してぬゆくとく和尙極 蓮雨

けり昔の井のあは水晶 范池

指さしてはも跡さぬ家の花 朱二

時る冬の調子いろく 瓶筆

真真

羽織さく半は誰後月 松兼庵 古友尼

為るる日も四五日の蛙くれ 呉陸

松風を流川流川柳哉 素綾

梅咲と懐廣一日の香ひ 梅見

かゝた如鶏を和合の葦代 見友

玲瓏茶室して茶神未の焼か 祖栗

下州水羽二重まれの柳くれ 幾重

昔し子ねれ付くあゝ氣の番 今

春無

影をてし梅の香もさるよ下津水 みね女

花の香もさるよとや月 今



梅の香もさるよとや月 今 吾丸

長崎不易菴

花の香もさるよとや月 今 知丸



花の香もさるよとや月 今 赤岩 法雨

花の香もさるよとや月 今 馬白

花の香もさるよとや月 今 一乘

花の香もさるよとや月 今 宗瑞

花の香もさるよとや月 今 深山

花の香もさるよとや月 今 宗寺

花の香もさるよとや月 今 不門

雪の梅うてはし月をくくれ

牛道

秋吹空望をく山を下らふよ

風葉

舟をゆふ袖よ雨の夕柳

一巻

細れあふるに夜明けの風

一叟

○

袖たうる葉の戸押せ春日は

以足

寺の窓や日乃入る方と人戻る

まきふ

溪萩の名よかりぬやま萩の巻

梅力

○

ゆへ年や表の萩の巻此都

萩都

年る代越(け)く寺の歩こりれ

萩都

よあも松く海浜(は)年の川

萩舎

○

梅を巻めく戸をう除夜掃除

寡和

小麻布小濠(せ)くも足る師をい

公基

ゆりや大花(はな)のいらのり

相葉

夏前の河に、沢舟を、笑ひ、
くしくおとす小袖くけ、
年忘 吳地



庵より来て、泣くや、妹の案門
雨什
御後の鬱、梅、如、
雀里
春の夜、の物、
祇江



雨、
完来

小波の、
雪萬
春、
里麥
白麻
午心
寒松
他

梅、
格二

千尋の樹をさう糸休賣

全

梅市

香籠をあはくししゆよ年の直

梅後邑

文竜



卯の毛を卯月の雲しけ

蓮之

年のまら乃為るも秋月花小

橋契

真侍や梅も雪より依

扇波

た影の雪や笛よぬきも夢の丈

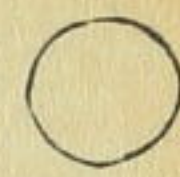
菜圃

舟買ふくも年のまらみも秋思

且雪

雪より受春もより眠りて

衣水



花の種おほくも年乃露の

我泉

山の端より日も遠くやの市

字呂

春も花日や影をせし山尖今

萬化

采舟をハ戸くまは物の梅の月

房冊

宜明

出女のお粉げつゝ一年返

梅後改

白芥

身也けりーらとのまゝに鶴の足 堂河
 鴨は骨はくぬきありきの庵 城久
 梅の香は雲 志城の序も垣溝 信阿
 上見影も多しあさりの刺り掛 世逸
 おくくちり年の瀬や富士の山 謙堂

未亥、年三節、玉の湯、十二月下旬、小春、希中
 古、近、連、も、十二、月、十、日、限、り、希、中、希、中、希、中、希、中
 希、中、希、中、希、中、希、中、希、中、希、中、希、中、希、中
 出、白、下、り、以、上

